



# 前進

第10号

12月2日発行

文責：濱田

育てたい力：共感力・探究力・協働力

## ◎創立150周年記念式典を開催しました。

11月19日（土）に佐敷小学校創立150周年記念式典を開催しました。午後からの開催となりましたが、それに先立ち、1・2・3年生はプレ記念式典を3時間目に開催しました。

式典は二部構成となっており、前半はオープニングムービー放映に引き続き、1・2・3年生による手話付きの合唱のムービー放映、そして各あいさつ等を行いました。後半の部は子供たちの論語の素読からスタートし、各学年の発表、先輩からのメッセージ動画、記念の書の公開等を行いました。

4・5・6年生の発表は芦北町の良さ、本校の歴史から学んだこと、将来の夢等をメッセージに込め、堂々と発表しました。来賓の方からも多くのお褒めの言葉をいただいたところです。

各界で活躍している先輩からのメッセージ動画はプレ記念式典でも公開し、子供たちも食い入るように見つめていました。個性を伸ばすこと、夢を持つことの大切さ、あきらめずに努力することの意義等、伝えていただいた内容はきっと子供たちの心に残ったことと思います。

今回の150周年記念式典のテーマは「温故創新」で「故きを知り、生きる力を培い、新しきを創る」という意味が込められています。そのテーマを記した記



念の書を公開し、式を閉じました。現在の在校生が50年後、佐敷小学校が創立200周年を迎えたときに、この150周年記念式典のことを思い出してくれることを願っています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの方に参加いただけなかったことは残念でしたが、保護者の方には式典の様子を何らの形でご覧に入れられればと考えています。また、「#佐小でつながる150周年プロジェクト」などでのご協力、ありがとうございました。

### ◎演奏家派遣アウトリーチ事業

熊本県立劇場が主催する標記の事業を今年も実施しました。対象は6年生で、今年はおーボエ奏者若木麻侑さんとピアノ奏者藤本史子さんが音楽室で演奏されました。おーボエとピアノの音色を身近で聴き、子供たちはその美しい音色に浸っていました。おーボエの口に含むリードの部分は薄さ約0.1ミリで、演奏家



が自分で作られるそうです。10個から20個作って、実際にコンサート等で使えるのは1個程度だそうです。実際に作られる場面も見せていただき、演奏の練習だけでなく、楽器と一体になりながらより良い演奏を追究される努力についても学ばせていただきました。子供たちは「音楽は聞き手が自由に想像して良いことが分かりました。」といった感想を發表し、実りある演奏会になりました。

### ◎心のアンケートを実施します。

いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの迅速な対応を行うために、今年度も12月に心のアンケートを実施します。このアンケート調査を実施することで、児童生徒の思いに寄り添い、いじめの実態を把握するとともに、迅速・適切な対応を行い、いじめのない、すべての児童が安心して楽しく生活できる学校にするための資料とします。アンケート結果を受け、限られた時間ではありますが個人面談の時間も設けます。今後とも、何か気になること、お気づきのことがありましたらお知らせください。

【校長室から】令和2年7月豪雨からの復旧・復興に向けて、現在でも様々な方からご支援・応援をいただいています。先日、長く芦北管内の学校にお勤めだった松村誠也先生からお電話をいただきました。松村先生は私の中学生時代の恩師です。松村先生からは「佐敷小学校の復旧への思いを込めて絵画を寄贈したい。」とのお話がありました。ありがたく頂戴し、いただいた絵画は2回のギャラリーに飾らせていただいています。美しい深秋の風景が描かれています。保護者の皆様も来校した際にはご覧ください。